

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成22年6月1日	
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス			
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所			
所在地	(〒254-0012 )			
	平塚市大神2108-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ご利用者様同士が馴染みの関係を深める事が出来る様、職員は、柔軟な態度で接します。また、ご利用者様の持っている力を十分発揮出来るよう支援し、「今を大切に」安全・安心した生活を提供出来るよう、努めます。」「職員一人ひとりが自らのケアの実際と力量を把握し、チームの一員として自己覚知、自己研鑽に努めます。」「ご利用者様が地域の一員として、繋がりを持ち暮らしに行けるよう、地域との交流を深め、地域の中に自然に存在する「お年寄りの家」になる事を目指します。」「働きやすい・働きがいのある職場作りを目指します。」以上を今年度の事業所目標に掲げています。

明るく家庭的な雰囲気の中で、地域との交流を深め、ご利用者様・ご家族様から学ばせて頂く姿勢を大切に、理念「ゆったりと・心穏やかに・尊厳を大切に・笑顔あふれる日々」の実践に努めます。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年1月27日	評価機関 評価決定日	平成28年5月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR東海道線平塚駅または小田急線本厚木駅からバスにて約20分の幹線道路から少し入った住宅地に立地している。昨年度は、事業運営の透明性、運営推進会議や地域との連携など多様な取り組みが評価されて、外部評価の実施回数の緩和の適用を受けた事業所である。</p> <p><b>【運営推進会議を活かした取り組み】</b> 運営推進会議は2か月に1回開催している。メンバーには自治連合会会長、社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者・家族などが参加し、事業所の運営内容や行事、外部評価の受審結果について報告し、意見交換を行いサービス向上に活かしている。</p> <p><b>【看取りに関する方針の取り組みと実践】</b> 協力医療機関の医師と訪問看護師が連携を図り、利用者が安心して医療の受診や健康相談ができる体制にある。今までに数名の看取り介護を経験している。入居時に重度化に関する方針を説明し、看取りに関する同意を得ている。利用者・家族の要望がある時は、思いを確認し、家族の理解と協力を得ながら、医師の指示のもとで、尊厳ある安らかな最期を迎えることができるような支援体制の構築に取り組んでいる。</p> <p><b>【多彩な行事の実行と外出支援並びにボランティアとの交流】</b> 事業所では、年間月別行事表を作成している。地元の寄木神社への初詣、どんと焼き、ひな祭り、花見、ポピー観賞、江ノ島水族館、コスモス観賞、柏木牧場見物、クリスマス会など多彩な外出行事やレクリエーションを実施して、利用者の気分転換を図り、充実した生活が送れるよう支援している。近隣の幼稚園児が事業所を訪れており、利用者は、子供たちの歌や踊りを楽しみ、手作りの作品をプレゼントしている。中学校の吹奏楽部や民謡、琉球太鼓、ギターやアコーディオン演奏のボランティアも来訪している。介護相談員を受け入れている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職場同志でも、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。	理念は、開設時の管理者と職員が話し合って作成し、事務室と各ユニット出入り口に掲示している。管理者が新入職員の研修時に説明し、職員は毎朝の申し送り時に唱和している。名札の中に入れて、日常業務の中で、常に職員間で確認し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等積極的に参加させて頂いている。近隣の幼稚園・保育園・学童・中学校との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。	自治会に加入し、地域の道路清掃、盆踊り、どんと焼き、公民館祭りに参加している。近隣の幼稚園児の歌や踊り、中学生の吹奏楽を楽しみ、民謡、琉球太鼓、ギターやアコーディオン演奏などのボランティア、介護相談員が来所し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をさせて頂く機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度リビングにて開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等を検討、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催している。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審結果を報告し、意見交換を行い、地域の情報を得て、サービスの向上に活かしている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。2か月に1回、社会福祉協議会を事務局とした、グループホーム連絡会に参加している（介護保険課の方同席）	管理者は、平塚市介護保険課へ運営面などを報告し相談をしている。グループホームや小規模多機能型事業所などが参加している平塚地域介護システム会議に出席し、情報交換をしている。	
---	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に入出入りしている。緊急やむおえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。	身体拘束をしないケアの勉強会を行い、正しい理解に努めている。玄関は施錠せず、目配りをしながら、見守っている。1階・2階の各ユニット出入り口は、ドアの開閉時に電子音が鳴る装置が付いている。利用者に帰宅願望がある時には、職員が付き添って外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業（1名）、成年後見人制度（1名）を活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加時等、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。	運営推進会議や年1回の家族会、家族の来訪時には、利用者の日頃の様子を説明し、意見や要望を聞いて運営面に反映している。家族からは、家族会の開催は事業所行事と同じ日にしてほしいとの要望があり、去年は、クリスマス会と併せて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がユニット会議に参加する機会を設けている。管理者は、個々面接等を行って意見や提案を聞いている。ユニット会議にて於いて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。	月1回のユニット会議や朝・夕の申し送り時に職員から日常業務の要望・意見を聞き、業務に反映している。職員から処遇改善に関する質問があり、運営法人の担当役員が会議で説明している。運営法人は、隣接した建物内にあり、日常的に担当役員が来所し、職員から要望や意見を聞いて事業に反映している。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々面接等において職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また、ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、共感し、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等、連絡したり、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人への電話・手紙などで交流している。面会時は、くつろいで頂ける環境を提供出来る様、努めている。地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流出来るよう支援している。	利用者は、家族と一緒に馴染みの美容院や墓参りに出掛け、外食して帰る方もいる。知人や友人が来訪し、居室で歓談している時には、お茶を出している。茶道の師範だった利用者の弟子が来訪し、事業所内で一緒にお茶会を開催したことがあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。本人が来苑する事があり、職員・利用者と交流している。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に添える様、会話の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。	職員は日頃の表情の中から、利用者の意向を汲み取るように努めている。利用者の生活歴から情報を得たり、介護相談員から要望を聞き出してもらうこともある。意向を自分から伝えるににくい方には、入浴時や夜間の静かな時間帯に話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。馴染みの家具を配置する・好きな食べ物の把握等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。アセスメントを行い、本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	入居前に自宅や病院を訪問し、利用者・家族と話し合っている。入居後すぐにアセスメントを基にした暫定プランを作成している。約1か月後に医師などの意見を参考にカンファレンスを行い、約3か月後から本プランとしている。見直しは通常3か月毎に、利用者の状態に変化があれば随時行っている。	

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園・幼稚園等との交流、悠悠まつりの開催等、地域との交流を図っている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。	ほとんどの利用者が、月に2回協力医療機関の往診医に受診している。専門医への受診は、利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続できるよう支援している。家族に代わって職員が通院介助をする場合もある。医療情報は訪問記録受診記録とケア記録に記録して情報の共有に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。	いままでに看取り介護を数名経験している。入居時に「重度化した場合における対応の指針」を説明している。看取り介護は協力医、家族、職員が話し合い、利用者にとって最善の方法を取るという方針を関係者間で共有している。	看取り介護の勉強会を今後も継続的に行い、一層充実した終末期ケアに取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、研修を行っている。見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。	防災・避難訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導を得て行っている。避難訓練のお知らせとお願いのチラシを近隣の各戸のポストに投函している。地域の方の指導を受け、ロープの安全な結び方を学んでいる。非常災害用の飲料水・食料は3日分程度備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を全員が受けている。個々に努力しているが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。	職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。日頃より利用者に応じた穏やかな声かけをして、耳の不自由な方には耳元でゆっくり話すことを心掛けている。時に職員が高調子で話している時が見受けられ、事業所の課題となっている。	職員は日頃から穏やかな言葉かけをするよう心掛けています。利用者への声かけについて、再度ユニット会議時を利用して、利用者の気持ちを大切にしたい声かけを話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、利用者のペースで生活出来る様、ユニット会議等で確認し合い、支援しているが、十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。衣類を選び購入する。美容院に行く利用者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせず声掛けを工夫し、利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。	献立と食材は外部業者に委託し、調理は職員が行っている。利用者は職員と一緒にテーブル拭き、食器拭き、盛り付けなどを行い、職員と一緒に食事をしている。誕生会は、家族も招待し、利用者の好きな物を用意してケーキを出して祝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、夜間の水分補給等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導し、トイレで排泄出来る様、支援している。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の参考にしている。利用者が立ち上がったたりする動作などから察知してトイレへの声かけをしている。入居時にリハビリパンツの方が自立へ改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。	入浴は基本的には、週2回で、入浴日や時間は利用者の希望に合わせている。入浴をしたがらない方には、声かけをする職員や時間帯を変えて対応している。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、リハビリ体操等、皆で一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。	天気が良ければ、車イスの方も一緒に事業所の周辺や近くの公民館を目標にして散歩に出掛けている。駐車場で日光浴をする方もいる。時には、職員と買い物へ出掛ける時もある。春には、厚木ぼうさいの丘公園へ弁当持参で出かけ、花見を楽しんでいる。コスモスやポピーなどの四季折々の花を見に遠出している。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、祭りの模擬店等、財布を持ち、本人が食べたい物を選び、お金を払っている。</p>		
----	---	--	--	--



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がない様、配慮しているが十分ではない。	リビングは、明るく清潔に保たれ、加湿器を置き、温・湿度に配慮している。2階の窓辺からは、富士山や丹沢・大山連山が微かに眺望できる。付近を通る新幹線の音はまったく気にならない。1階のリビングはフローリングの上に18帖の畳を敷いている。季節に併せて、正月の松飾り、節分、七夕祭り、クリスマスツリーの飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を本人・家族と相談しながら配置している。	居室はベット、クローゼット、エアコン、防災カーテンなどが備え付けられている。利用者は馴染みのテーブルや椅子、整理ダンスを置いている。好きなぬいぐるみや家族の写真も飾っている。仏壇を持ちこんでいる居室もある。事業所は、利用者が居心地良く安心して暮らせるように支援している。		

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・布団・椅子）、家具等の設置を行っている。		
----	--	---	---------------------------------------	--	--

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職場同志でも、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させてもらっている。また、近隣の幼稚園・保育園・学童・中学校との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学に来られ案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をして頂く機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度リビングにて開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等、検討、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。2か月に1回、社会福祉協議会を事務局とした、グループホーム連絡会に参加している（介護保険課の方同席）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急やむおえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階ユニットで日常生活自立支援事業（1名）、成年後見人制度（1名）を活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加時等、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がユニット会議に参加する機会を設けている。管理者は、個々面接等を行って意見や提案を聞いている。ユニット会議にて於いて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。		
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々面接等において職員から意見等聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また、ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、共感し、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等、連絡したり、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人への電話・手紙などで交流している。面会時は、くつろいで頂ける環境を提供出来る様、努めている。地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。本人が来苑する事が、職員・利用者と交流している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に添える様、会話の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。馴染みの家具を配置する・好きな食べ物の把握等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。アセスメントを行い、本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園・幼稚園等との交流、悠悠まつりの開催等、地域との交流を図っている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、研修を行っている。見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を全員が受けている。個々に努力しているが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、利用者のペースで生活出来る様、ユニット会議等で確認し合い、支援しているが、十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。衣類を選び購入する。美容院に行く利用者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、夜間の水分補給等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている 歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導し、トイレで排泄出来る様、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間のめやすはあるが、出来るだけ希望に応じて入浴出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、リハビリ体操等、皆で一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、祭りの模擬店等、財布を持ち、本人が食べたい物を選び、お金を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がない様、配慮しているが十分ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を本人・家族と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・布団・椅子）、家具等の設置を行っている。		





目 標 達 成 計 画

事業所名 悠悠苑 平塚事業所

作成日 平成28年5月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取り介護を数名経験している。主治医をリーダーに随時、ご家族と話し合いの場を設け、利用者様が最期まで、尊厳ある暮らしを続ける事が出来る様支援している。より一層充実した終末期ケアを提供出来る様、研修等が必要と思われる。	職員が同じ視点を持ち、チームで取り組む事で、充実した終末期ケアを提供する事が出来る。	1、外部・内部研修の実施。 2、「ターミナルケアの指針」の読み合わせ。 3、終末期ケアに於いて、それぞれの役割を理解し支援に役立てる。	1年  6か月  1年
2	36	接遇の研修を全員が受けている。個々に努力しているが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。	個々が掲げた、自己目標を達成する事が出来る。	1、自己目標を他者に周知。 2、自己評価を実施。目標の見直し・目標設定。 3、自己目標を他者に周知。 4、自己評価・他者評価。	1か月 ↓ 3か月 ↓ 1か月 ↓ 3か月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。